

胃がんを増やす塩分過多

がん社会 を診る

中川 恵一

55歳までにはがんになる確率は、男性では5%もありませんが、女性は男性の約2倍の9%です。

男性が55歳定年を前提に会社で働き、女性は家事を担ったかつての日本社会では、働くがん患者は少なかったはずですが、65歳までの罹患（りかん）確率は、男性13%、女性17%と接近し、70歳まででは男女とも21%となります。会社の全社員が70歳まで働けば、社員の5人に1人ががんに罹患することになり

ます。

女性の就労と定年の延長は働くがん患者を増やすこととなります。「がん社会」の到来です。

国も働く人のがん対策に力を入れていきます。「がん対策推進企業アクション」は企業でのがん対策を進める厚生労働省の国家プロジェクトです。09年に発足したロングラン事業で、15年間私が議長を務めています。サイトも充実していますので、「企業アク

ション」で検索して下さい。

10月末に秋田市で企業アクションの地方セミナーを開催しました。佐竹敬久知事には挨拶の他、トークセッションにも参加頂きました。

佐竹知事はかつて角館を領有した佐竹北家の21代目の当主で、風貌はまさに「お殿様」。がん対策にも強い関心をお持ちで、秋田を健康長寿県にしたいと力強く語られたのが印象的でした。

ただ、知事にもはつきり申し上げましたが、秋田県は「がん対策後進県」で、「年齢調整がん死亡率」は47都道府県中下から第3位。とくに胃がんによる死亡が多いのが秋田県の特徴で、20年のデータでは、胃がんによる年齢調整死亡率は男女とも秋田県がワースト1位でした。

胃がんの主な原因は幼いころのピロリ菌感染ですが、ピ

ロリ菌の感染者のうち、実際に胃がんになる人は1%以下にすぎません。動物実験でも、ネズミにピロリ菌を感染させただけでは胃がんはできませんでしたが、さらに多量の塩分を与えたところ、胃がんが頻発しました。

ピロリ菌に感染している人が、塩分過多になると、胃粘膜の炎症が進み、胃がんを発症しやすくなるわけです。秋田県でピロリ菌の感染率がとくに高いわけではありませんが、同県に胃がんが多い主な理由は塩分の高い食事にあると思われま

す。胃がんによる死亡率が秋田県とともに高いのは、青森、山形、新潟といった塩分摂取の多い各県です。逆に、本土ほど漬物文化がないとされる沖縄県では、胃がんによる死亡率も最低ランクです。

佐竹知事の「減塩で秋田の胃がんを減らそう」という呼びかけで企業アクション秋田セミナーは閉幕しました。

（東京大学特任教授）



イラスト 中村 久美